



令和4年11月16日
進路指導係

11月も後半に入りいよいよ第3回定期試験が近づいてきました。皆さんは毎日の授業にしっかりと取り組み、学力の定着を図っているでしょうか。

卒業予定生は9月からの就職試験、また進学試験に臨んでいます。現在までの状況は就職内定者19名、大学4名、専門学校12名が合格となっています。今年度の企業求人数も昨年同様に多く、卒業予定生の皆さんはよく健闘し、多くの内定をいただいています。引き続き就職試験、進学の推薦入試、そして今後は進学の一般入試も始まり、受験はまだまだ続きますが、それぞれの進路実現に向かって頑張ってください。

卒業予定生以外の皆さんは、第2回進路希望調査や来年度の履修指導等を通じて進路について考える機会が持てたのではないかと思います。進路希望に基づいてこれから何をどのように準備していけばよいのか具体的に考え、行動に移して行って下さい。特に来年度卒業予定で大学・短大・看護専門学校の希望者は10月の模擬試験の結果も参考にして志望先や対策についてよく考えてください。

今回のテーマは「進学」と、「インターンシップ」についてです。

◇進学について

大学・短大・・・一般教養や知識を幅広く身につけながら、専門分野の勉強を行う

専門学校・・・職業や実生活に必要な知識や技術、また資格の習得を目指す

◎志望校を決めるには・・・

- ①自分を知る 将来何になりたいのか、自分はその分野に向いているのか
そのためにはどんな勉強や資格が必要か
模擬試験の活用（自分の学力と入試レベルを知る）
- ②学校を知る 学校案内やHPで調べる（学校の特色や歴史、カリキュラム内容、卒業後の進路、入試情報、学費など）
学校説明会・オープンキャンパスに必ず参加する
受験校・受験方法を決め、学習計画を立てる

◎主な受験方法には、①推薦入試(指定校・一般)②一般入試③総合型/AO入試があります。毎年、進学希望者の多くが推薦入試で受験します。高校から推薦をもらうためには、成績(評定平均値)、評定1の科目がないこと、欠席が少ないこと、模擬試験を受験していることや卒業予定生基礎学力テストの成績、生徒指導上の問題がないことなどが考慮されます。また、推薦入試で受験する場合、同時に並行して他校を受験することや、就職試験等を受けることができません。

◎その他の留意事項

- ・通常の学校の授業と入試のレベルは違います。(目標は進学模試で全国平均点以上)
- ・進学(特に大学・短大)を考えている者は、毎日最低2時間以上の家庭学習が必要です。
- ・専門学校の中でも看護・医療系の学校は難しく、特に看護系は非常にレベルが高くなっているため、高校入学時から受験の準備を始める必要があります。
- ・かかる費用についても保護者と相談しておきましょう。出願時の受験料はもちろん、入学手続き時(合格後すぐ)に必要な初年度納入金等もしっかり確認しておくこと。
(参考) 入学金+授業料：120万円(私立大文系)、150万円(私立大理系)、100~140万円(専門学校)

◆2020年度から大学入試のしくみが変わりました。

- ・大学入学共通テスト(旧:センター試験)の導入:高校での学習の到達度を見る学力試験。解答方法はマーク式。国公立大学+多くの私立大学で利用
- ・入試の名称および他の変更点
 - ①一般選抜(旧:一般入試):筆記試験に加え、調査書や志願者本人が記載する資料等を積極的に活用。
 - ②学校推薦型選抜(旧:推薦入試):出願時期は11月以降、合格発表時期は12月以降。
 - ③総合型選抜(旧:A O入試):出願時期は9月以降、合格発表時期は11月以降。
学校推薦型選抜・総合型選抜では調査書等の出願書類だけでなく、各大学で実施する評価方法(小論文・プレゼンテーション・口頭試問等)か「共通テスト」のいずれかを活用。
受験生の多面的な評価のため、高校が作成する「調査書」「推薦書」や本人が記載する資料(活動報告書など)を積極的に活用。(自分の学習・活動記録を蓄積しておく必要あり→「**やまなしキャリア・パスポート**」の活用)

※各大学の入試情報については必ず最新の公表情報(ホームページ等)で確認してください。

◇インターンシップについて

中央高校では2年次(ただし3年次以上の卒業予定でない生徒も可)にインターンシップを行うことができます。インターンシップは「就業体験」とも言われ、企業等で一定期間(3~5日間)実習生として働くことで現実の社会を知り、将来の進路を考える参考にする、また働くことの意味、仕事の厳しさ、一方で楽しさを実感するなどを目的としています。

※単位認定:終了後に1単位の認定がされます。ただし、前年度の履修登録時に申請が必要です。またインターンシップ期間中だけでなく、学校での事前指導(9時間)や事後指導(2時間)等に出席することが条件です。

今年度もコロナ禍の影響が心配されましたが、無事インターンシップを実施することができました。提出された日誌やレポートには、通常では知ることや行うことのできない職場での仕事が体験できて満足していること、働くことの「大変さ」と、一方で「やりがい」をしっかりと実感できたこと、どの職場においてもコミュニケーションやチームワークが大切であることを学べたことなどが記されており、今後の高校生活や自分の進路を考える際に活かされることと思います。実習中だけでなく、事前・事後の活動もあって大変ですが、しっかり取り組んだ生徒にとってはインターンシップを通じて得たものは大きかったはずで、以下は参加生徒の感想です。

・実際にインターンシップを体験して、介護の仕事は利用者の方の話し相手をしたり、足が悪い人などの機能訓練をしたり、ひとりでも生活ができるように手助けをしていると思うと、大変だけれど、やりがいのある仕事だと思った。課題としては、介護の仕事につく人が少ないこと。インターンシップで学んだことを周りで介護している人に自分の知っている範囲で教えたい。介護の仕事は精神面が強くないときつい仕事だと思ったし、本当に大変だけれど、何より利用者の方が1日笑顔で楽しく過ごしていて、やりがいのある仕事だと思った。私も将来は人が喜ぶ仕事に就きたい。(介護施設)

・インターンシップをする前は具体的に何をやるのかわからず、不安だったけれど、担当の方が丁寧にしっかり教えてくださったので、3日間仕事をしっかりこなせてよかった。課題は、地域の人にもっと科学や県立科学館に対して興味関心を持ってもらう必要があると感じた。今後科学館でのボランティアを通して科学の楽しさを広めていきたい。この体験で、難しいと思っていたことに挑戦してやり遂げたという自信を持つことができた。今後も色々なことに失敗を恐れず挑戦したいと思う。(県立科学館)

